

資産・財務内容において、トップレベルの健全性を堅持し、 お客さまに安心をお届けします。

ソルベンシー・
マージン比率

991.4%

予測を超えたリスクにも十分対応できる支払余力を確保しています。

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。
平成17年度上半期末のソルベンシー・マージン比率は991.4%と十分な支払余力を確保しています。

リスク管理債権

0.57%

(リスク管理債権額の貸付残高に対する比率)

厳正な自己査定を実施し、資産内容の健全性を堅持しています。

リスク管理債権とは、貸付金のうち、返済状況が正常でない債権を「破綻先債権」「延滞債権」「3ヵ月以上延滞債権」「貸付条件緩和債権」の4つに区分した総称です。平成17年度上半期末のリスク管理債権額は398億円、貸付残高に対する比率は0.57%と、きわめて低い水準を堅持しています。

実質純資産額

3兆6,894億円

健全な経営を維持していくための十分な純資産額を備えています。

実質純資産額とは、時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いた、いわゆる時価ベースの純資産額で、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。
平成17年度上半期末の実質純資産額は3兆6,894億円で、一般勘定資産に対する比率は14.9%と十分な水準を確保しています。

含み損益

(一般勘定資産全体)

1兆9,841億円

バランスのとれた堅実な資産内容で、十分な企業体力を堅持しています。

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額(取得価額)との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。平成17年度上半期末は、一般勘定資産全体で1兆9,841億円の含み益を確保しています。

当社は次の主要な資産すべてにおいて、含み益を確保しています。(平成17年度上半期末含み損益)

国内公社債	国内株式	外国公社債	外国株式等	土地
1,404億円	1兆5,192億円	734億円	1,779億円	814億円

お役に立った保険金・年金・給付金は、9,263億円(平成17年4～9月)

平成17年4～9月にお支払いした保険金・年金・給付金の合計額は、9,263億円となりました。
これからも、お客さまに「安心」をお届けするために全力を挙げて取り組んでいきます。
ご参考：平成16年度の1年間(平成16年4月～17年3月)にお支払いした保険金・年金・給付金の合計額は、1兆7,928億円でした。

基礎利益

2,058億円

(平成17年4～9月)

安定した収益力を有しています。

基礎利益とは、保険料収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間収益の状況を表わす指標です。
平成17年度上半期は2,058億円と安定的な基礎利益を確保しています。
なお、基礎利益から、有価証券の売却損や評価損、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを差し引いた最終的な剰余を、事業年度末決算において定款に従い配当としてご契約者に還元しています。